

引用・参考文献表記法

- A) 文中の引用は以下のようにする。
- 和書一(山崎 1997、25 頁) / (ベイトソン・ロイシュ 1998)
 - 洋書一(Gurman, 1989, p. 34) / (Strunk & White, 1979)
- B) 参考文献は文末に一括して下記のように記載する。
- (1) 和書単行本
和辻哲郎 (1935) 『風土』岩波書店、1 頁。
 - (2) 和書編著書に収録された論文
松本耿郎 (1989) 「言葉・存在・認識」黒田壽郎 編 『地域研究の方法と中東学』(111-113 頁)三修社。
 - (3) 和文論文
神山四郎 (1989) 「福沢諭吉の西洋理解」『異文化コミュニケーション研究』1 号、20-21 頁。
 - (4) 翻訳書
ホール、E. T. (國弘正雄 訳) (1966) 『沈黙のことは』南雲堂。
 - (5) 洋書単行本
Strunk, W., Jr., & White, E. B. (1979). *The elements of style* (3rd ed.). New York: Macmillan.
 - (6) 洋書編著書に収録された論文
Gurman, A. S., & Kniskern, D. P. (1981). Family therapy outcome research: Knowns and unknowns. In A. S. Gurman & D. P. Kniskern (Eds.), *Handbook of family therapy* (pp. 742-775). New York: Brunner/Mazel.
 - (7) 欧文論文
Paivio, A. (1975). Perceptual comparisons through the mind's eye. *Memory & Cognition*, 3, 635-647.
 - (8) 著者・編者が複数の場合
佐伯彰一・芳賀徹 編 (1987) 『外国人による日本論の名著』中央公論社。
古田暁 監修、石井敏・岡部朗一・久米昭元 (1987) 『異文化コミュニケーション』有斐閣。
ベイトソン、G・ロイシュ、J. (佐藤悦子・ボスバーグ、R. 訳) (1995) 『精神のコミュニケーション』新思索社。